

巻頭言
Greeting

×

竹内 豪

Tsuyoshi Takeuchi
聖書宣教会 理事
(つつじヶ丘キリスト教会 牧師)

Profile

1950年岡山県生まれ。聖書神学舎20期卒。1979年よりキリスト者学生会主事。1990年より日本福音キリスト教会連合 永福南キリスト教会、2018年よりつつじヶ丘キリスト教会で牧師。KKG協力主事。聖書宣教会理事。



「活路ではなく、死に場所を」

聖書神学舎での3年間は、その後の44年の伝道牧会を支え続けてくれました。特に、主が愚かな者を聖書のみことばをもって導かれた2つの悔い改めをお分かちします。

1つは婚約式前夜の悔い改め。2年終了前に婚約に導かれました。その前夜、2日間続くしゃっくりに悩まされていました。医学的根拠は全く無いのですが、しゃっくりが3日続くと死ぬと聞いていました。明日の婚約式を前に死ぬかもしれない。そのときルカ12:20が迫りました。

「しかし、神は彼に言われた。『愚か者、おまえのたましいは、今夜おまえから取り去られる。おまえが用意した物は、いったいだれのものになるのか。』」

「おまえのたましいも、今夜おまえから取り去られる。おまえはわたしに従うか」と、問われました。厳粛な思いにさせられ、床の上で静まり、それまでの人生を振り返りました。その年は学生時代の親友が救われ、自らの救い以上にうれしく、感謝におどる喜びが与えられていました。「これでたとえ死んでも、彼が代わってキリストにある生を生きていってくれる。残りの人生はおまけだ!」と思ったではないか。いのちも結婚も御手にあり、御心なら与えられる。両手を広げて差し出し、御心なら受け、御心でなければ取り上げられる。明け渡すこと(献身)を再確認させられました。気が付くとしゃっくりは止まり、平安と喜びを回復して翌朝を迎えました。

もう1つは進路選択前の悔い改め。奉仕教

会から牧師として、キリスト者学生会(KKG)から主事として招聘をいただきました。二者択一を迫られ、御心を求めて祈りました。しかし正直に申し上げると、どちらの道が自分をより活かせるかに心が捕らわれました。その時示されたのがヨハネ12:24です。

「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままです。しかし、死ぬなら、豊かな実を結びます。」

主はご自身を一粒の麦にたとえ、その十字架の死により多くの人を救いに導かれます。そのためにこの地を死に場所とされました。それにひきかえ私はどうか?両手を開いて差し出し、すべてを明け渡す献身に召されたはず。それがいざとなると、死に場所ではなく、活路ばかり求めるありさま。「愚か者、自我に死になさい。そうすることで実を結びなさい」と、主は今も語り続けておられます。

聖書宣教会の学びは厳しく、長い忍耐とたゆまぬ努力が求められます。しかし、そのプロセスの中で、主は必ず、それぞれをお取り扱いくださいます。願わくは、今後ますます、みことばの真実によって整えられた主の器が起こされ続けていきますように、お祈りしています。

No.192 Topics

- p03 新入会生
- p04-05 2022年度卒業生
- p06 卒業生を迎える教会の声
新入生を送り出す教会の声

赤坂 泉

Izumi Akasaka
聖書宣教会 校長

みことばに仕える働きは聖書神学舎の原点であり、不断の願いです。オンライン継続教育では受講した47名の教職者たちとみことばを学ぶ機会を感謝しました。聖書神学舎デイでは聖書のミニ講義を携えて出かけて行く幸い、教会での交わりに与る幸いを得ました。5名の卒業生を送り出し、5名の新入会生を迎えた喜びも、その同じ点に由来します。聴講生数が少しずつ回復していることも喜んでいきます。

供給してくださる主に信頼して

ただ、主の畑の必要に鑑みると、もっと多くの献身者が起こされること、この学舎にも導かれてくることを切望します。主と主の教会に仕える、みことばに忠実な伝道者たちを整え、送り出せるようにお祈りください。

教職員の人材の必要も多大です。専任教師が起こされるように、次世代の教師陣が加えられるように、職員の面でもさらに充実するようにどうぞお祈りください。

経済のためにもお祈りください。諸教会、諸兄弟の力強い祈りと献げ物に心から感謝しています。昨今の経済情勢の変化の中でも、変わらずに継続して、あるいは匿名で献げてくださる皆さまに主の祝福がありますように。諸教会でも戦いの大きい2022年度だったことと拝察しますが、学舎の決算は実質赤字を見ました。厳しい現実を直視しつつ、この面でも主が供給して下さることを信じています。

嬉しい情報は、奨学金のための献金が豊かに備えられていることです。主の召しを確信した者は、遅滞なく立ち上がって欲しいと思います。主が供給して下さいます。

夏に向かって

感染症対策に気をつけながらも、学舎の日常はかなりの部分で三年前の風景を取り戻しています。前期の「祈りの日」には高木実先生をお迎えします。楽しみにしています。校長の外部奉仕も、毎主日の奉仕に加えて、聖会や伝道集会、諸教団の教職研修など、出かける機会が急増している感があります。

夏の備えも進んでいます。

キャラバン伝道は、三つのチームが辰口キリスト教会(石川)、飯田知久町教会(長野)、みなみ野キリスト教会(東京)で奉仕させていただく予定です。

夏期研修講座「今、救済論を考える」は奥多摩で対面のみで提供します。今の時代に、もう一度聖書から救済論を考える必要を覚えています。教会音楽夏期講習会「みことばと音楽～朗読とコラールによるヨハネ受難曲」は、昨年に計画してキャンセルせざるを得なかったプログラムをそのまま提供します。どちらも有益な学びの機会です。申し込みが始まっています。ウェブサイトをご覧ください、お祈り、ご活用ください。

みことばを宣べ伝えなさい。

時が良くても悪くてもしっかりやりなさい。

忍耐の限りを尽くし、絶えず教えながら、

責め、戒め、また勧めなさい。

2 テモテ 4:2



02 新入会生 New Students

左から、北崎、嘉数、本間、後藤、ガウブ

氏名

出身教会

奉仕教会

聖書神学舎本科 [3名]

嘉数 泉
北崎 慎也
本間 里辺香

日本福音自由教会協議会
日本同盟基督教団
単立

浦和福音自由教会
大井教会
亀有教会

浦和福音自由教会
国立キリスト教会
長津田キリスト教会

聖書神学舎聖書科 [2名]

[聖書専攻]

ガウブ ナタナエル
後藤 優香

単立
単立

フランクフルト日本語福音キリスト教会
浦和福音教会

立川福音自由教会
ビサイドチャーチ東京

スーツケース三つで

ガウブ ナタナエル

WEC 国際宣教会の宣教師として日本へやってきました。ドイツから妻と一緒に送り出されて、クリスチャンが非常に少ないこの日本で福音伝道のお手伝いをしようと考えています。宣教師として二年間の学びの期間が与えられたので、どのようにしてこの二年間を使うのか祈り求めた結果、聖書宣教会へと導かれました。

アメリカの神学校はすでに出ているのですが、卒業以来、続けて聖書の勉強をしたいという思いがあり、日本人に伝道するなら、やはり日本語で勉強するのがベストだと思いました。

スーツケースを三つゴロゴロ転がして、聖書宣教会へ来ました。感謝なことに、小作駅に研修生が迎えに来てくれて、早速布団を買いに行きました。卒業生からは家具をいくつか譲ってもらうことができ、宣教会の車で買い物に行くこともできて、非常に助かりました。たくさんの方々に支えられ、不思議に導かれ、これからが楽しみです。

救われた喜びのゆえに

嘉数 泉

「しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、わたしの証人となります。」

(使徒 1:8)

罪に死んでいたみじめで強情な私を、神は5年前に病と痛みをもって打ち倒され、新しい命の歩みへと押し出してくださいました。御霊の力強い働きかけを感じた、初めての体験でした。罪に汚れた自分が十字架につけられ、私のうちにキリスト“が”生きてくださる。その叫び出さんばかりの喜びを伝える場として、はじめに小学校という場が備えられました。ですが、福音のさらなる拡大を切望する主の御思いが、日に日に迫ってくるのです。そして主は、ご自身が愛してやまないすべての方に御救いの良い知らせを伝えるため、この罪深く小さな私を召してくださいました。どうかお祈りください。この者を委ねられた務めを果たす器とならせ、ただ神の栄光が現されますように。



03 2022 年度卒業生 New Graduates

左から、鈴木、林、入月、本多、木津

氏名	出身教会	奉仕先
聖書神学舎本科 [3名]		
木津 健博 <small>きづ たけひろ</small>	OMFザ・チャペル・オブ・アドレージョン	日本ルーテル同胞教会
鈴木 直基 <small>すずき なおき</small>	長野篠ノ井福音自由教会	日本福音自由教会協議会
本多 卓也 <small>ほんだ たくや</small>	ヨハン東京キリスト教会	日本福音キリスト教会連合
聖書神学舎聖書科 [2名]		
[聖書専攻]		
入月 かおる <small>いりづき</small>	峡南キリスト教会 <small>きょうなん</small>	日本福音キリスト教会連合
林 哉希 <small>いむ じえひ</small>	あきる台バイブルチャーチ	日本長老教会
		酒田ルーテル同胞教会
		長野篠ノ井福音自由教会
		キリスト教朝顔教会
		峡南キリスト教会
		あきる台バイブルチャーチ

強くあれ。雄々しくあれ。

林 哉希

「イスラエル全体は乾いたところを渡り、ついに民全員がヨルダン川を渡り終えた。」

(ヨシュア3:17b)

昨春、3年間の聴講を終えて、聖書科へ入会を準備しながら色々な思い煩いを抱えていた時、デボーションで与えられたみことばです。まだ小さな子どもが二人、コロナ禍の中での恐れ、経済的な事など、思い煩いがますますあふれていた時でした。主が再びみことばの励ましと確信を与えて下さり、研修生生活を始めることができました。

真実な主は日々守り導いてくださいました。何より4年間の学びを通して、主のみことばを正しく聞く姿勢へと変えてくださいました。卒業を迎えましたが、入会式でのみことばを握りしめて、やっと踏み出せた一歩をこれからも歩み続けようとしています。

「わたしはあなたに命じたのではない。強くあれ。雄々しくあれ。あなたが行くところどこでも、あなたの神、主があなたとともにおられるのだから。」

(ヨシュア1:9)

ご真実な神様

「神はみこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行わせてくださる方です。」

(ピリピ 2:13)

神様は、65歳を過ぎた私に御声をかけてくださり、みことばを原語から学ぶ機会を与えてくださいました。この間、先生方は理解に乏しい私を潰さないように、丁寧に、忍耐強く教え続けてくださいました。授業前の祈りとチャペルから、私は何度も励ましを頂いてきました。また心身共に支え続けてくださ

た職員の皆様、仲間である研修生と御家族から、たくさんの祈りと愛をいただきました。そして背後に、いつも家族と峡南キリスト教会の姉妹のとりなしがありました。イエス様を中心にした祈りの交わりがあって、私は倒れることから守られたのです。そして再び山梨の地へ、みことばに仕える者として遣わされることは、本当に幸いなことです。この地で、共に主の恵みに生きる人々が起こされることを主に期待して、ご真実な主の御名を崇めつつ、これからも歩んでまいります。

「今日」という日

4年間の学びと研修生活が守られたことに感謝します。卒業説教を準備する中で、申命記8章を見ると、何度もモーセは「今日」という言葉を用いていることに気がつかされました。「今日」という日は、過去の歴史の上に成り立っており、同時にこれからの始まりでもあるということです。この過去と未来をつなぐ「今日」、私にとっては大きな節目である聖書神学舎を卒業し教会に遣わされる「今日」、主のこれまでの確かな守りと養いを覚え、そこにある主の愛と憐

れみを思い出しました。

知的にも、経済的にも、そして霊的にも、この4年間は「人はパンだけで生きるのではなく、人は主の御口から出るすべてのことばで生きる」ということを夫婦で共に学び、体験する期間でした。

私たち夫婦が教会へ遣わされる前に、これは主が通してくださった荒野であったのだと「今日」、確信を持って受け止めることができます。感謝して。

木津 健博

研修生活を終えて

入会した当時、自分は果たして四年間の学びを終えることができるだろうかと思っていました。経済的必要や学びや寮生活においての人間関係など、越えなければならない課題がいくつもあるように見えていました。しかし、今振り返ると、全ての必要は最後まで不足することなく満たされ、守られてきたことに驚かされています。神様は、私の思う以上に恵みを豊かに与えてくださり、ただただ感謝でした。

この四年間は私にとって、働きを始めるために大

きな励ましの期間であったと思います。まだまだ未熟で至らない者ではありますが、神様の約束を信じて、主の教会に忠実に仕えていきたいと思っています。

「神を愛する人たち、すなわち、神のご計画にしたがって召された人たちのためには、すべてのことがともに働いて益となることを、私たちは知っています。」

(ローマ8:28)

鈴木 直基

たくさんのもを頂いた四年間

神学舎での四年間は、主からの祝福で満たされていた。学びに関して言えば、単にギリシャ語やヘブル語で聖書を読めるようになったという以上に、神のことばを人間が読み聞くとはどういうことかを深く考えさせられた。これは一生をかけて向き合う問いとなるだろう。このような深い問いへと導いてくださった教師の方々と主なる神様に感謝するほかない。

また、研修生同士、寮生同士の交わりも、単に仲のいい人が与えられたという以上に、みことばに仕え

る者同士、似た悩みを共有できる者同士としての仲間を得た。時には孤独にならざるをえない牧会者にとって、神学校での仲間は貴重な相談役であり、祈りの同志と言える。

そして、最終年度には次の奉仕先も与えられた。もともと日本の教派とのつながりがなかった者に、「今後は日本の教会で仕えなさい」と主がおっしゃっていると感じた。みこころに従い、与えられた場で忠実に奉仕していきたい。

本多 卓也

04 卒業生を迎える教会の声 From Churches Where New Graduates are Serving

本多卓也神学生 (ウニョン夫人、シユウ君、エリンちゃんの家族) の伝道師就任感謝

三浦 春壽

Harutoshi Miura

キリスト教朝顔教会 牧師

ある方は、「素晴らしいみことばの担い手が来られ、良かったですね」と言っておられ、別の方は「信徒を助け励まし、愛する者として、当教会で過去に奉仕されたご経験を活かしながら、今教会に何が必要であるかを、一生懸命考えてくださっており、今後のお働きを期待しています」とも言われていました。さらに「聖書宣教会で学ばれたことを未信者の方に分かりやすく語ってくださっている」との声もありました。聖書宣教会での学びと訓練の有益さに驚かされ、感謝しています。また、キリストに贖われた者としての本多先生の能力が主に祝福され、人間的な見方以上に、聖霊に満たされ、助けられて用いられるように祈ります。主の教会の同労者として御学び舎から遣わされ、祈りを共にしなら、仕えていける器

として本多先生をお迎えできたことを心から感謝しています。

「これは、ゼルバベルへの主のことばだ。『権力によらず、能力によらず、わたしの霊によって』と万軍の主は言われる。」

(ゼカリヤ 4:6)



05 新入生を送り出す教会の声 From the Sending Churches

成長させてくださる主に期待して

後藤 茂未

Shigemi Goto

浦和福音教会 牧師

このたびは、後藤優香(娘)の入会を許可していただき、心から感謝いたします。

当時、すでに単立、無牧となっていた教会に赴任したのは約23年前になります。牧会経験のない30代前半だった私は、ただ聖書に信頼し、主にすがるように祈るほかありませんでした。その後も聖

書と祈りによる牧会を心掛けて来ましたので、あるべき聖書信仰が守られ、早天祈祷会から毎日が始まる貴会に娘が導かれたことを、主に感謝しております。

本人は、当初、キリスト教教育に関心がありましたが、教育実習などの経験を通してのみこころを求め、中で、「福音を伝えたい」「聖書そのものを教えたい」との願いが明確になっていったようです。最終的には、オープンデーで授業を受けさせていただき、その後の交わりを通して決心することができました。

多くの方々が入会を喜んでくださいましたが、本人は、授業に加え、寮生活も奉仕教会も初めてということで不安もあったようです。しかし、むしろそのような中で、主は、神の愛と神の義に生きる者として成長させてくださると期待しております。



イエスよ宿りませ

田村 将
Masashi Tamura
聖書神学舎 教師

表題の賛美は、『教会合唱曲集Ⅰ』1番および『礼拝讃美歌集Ⅰ』5番に収められているものです。その主題は、エマオの途上で弟子たちが主イエスに「一緒にお泊まりください(ルカ 24:29)」と言って滞在を強く勧めた際に発したことばに由来しています。作詞はフィリップ・メランヒトン(1節)とその弟子のニコラウス・ゼルネッカー(2、3節)で、岳藤豪希先生が訳詞されました。神学舎ではお馴染みの賛美の一つではないかと思えます。

この曲の題材となった当該箇所では、それまで道のりをともにさせて頂いた弟子たちが、「もっと先まで行きそうな様子」の主イエスを引き留めています。そうしなければ、主はもっと先へ行ってしまっていたことでしょう。(主が本当に行ってしまうおつもりだったのか、それともただ「ふり」をされただけだったのかを巡って議論がありますが、私は前者の理解に立っています。)もし弟子たちが主をお呼び留めしなかったなら、その後続く食卓での出来事(弟子たちの目が開かれイエスだと分かったこと)も起こらなかつたかもしれません。それゆえに、弟子たちが「一緒にお泊りください」と主に願い出たことは決定的に大切な出来事でした。機を逸することなく主に願い求め、能動的に行動すること。そのような人間の側の積極的な姿勢を教えられるように思うのです。

しかし、ここまで考えてきてふと立ち止まらされる点があります。それは、ここでの弟子たちの「英断(主に強く願ったこと)」を強調し過ぎると、どこ

かであまりにも人間本位な理解になってしまうのではないかと、ということです。つまり、救いに関して人間が果たすべき役割を大きく見積り過ぎてはいないかとの疑問です。現在担当させて頂いている「救済論」との関わりで言えば、「召命(救いへの神からの招き)」に際して、それに応答する人間の側の一般恩恵の能力が強調され、召命を有効とするか否かは人間の決断にかかっているという一種のセミ・ペラギウス主義に陥る危険性があるように思うのです。

けれどもみことばは幸いにも次のことで答えを提示してくれているように思います。それは、弟子たちの目が開かれて主イエスだと分かったときのくだりに見出されます：「道々お話しくださる間、私たちに聖書を説き明かしてくださる間、私たちの心は内で燃えていたではないか。(ルカ 24:32)」弟子たちはこの事実にあとになって気がつきました。しかし、彼らが気付く前に、主はみことばを通して彼らをお取り扱ひくださっていたのです。人を救いへと導く神からの召しは、みことばとともに有効に働くのであって、人の側の応答責任にすべてがかかっているわけではないのです。そのことをこの出来事は示しています。このような救いに自らも与り「モーセやすべての預言者たちから始めて、…聖書全体に書いてあること(ルカ 24:27)」を学び、更には教える務めを頂いていることの幸いをあらためて主に感謝するものです。

○ 図書館だより

鞭木 由行

Yoshiyuki Muchiki

聖書宣教会 研究図書主任・図書館長

前回、研究書に限らず多くの雑誌・書籍が急速に紙ベースから電子ベースに移行していることを書きました。これまでのように紙ベースの図書館であれば、蔵書数の圧倒的な差異から欧米の神学校のような図書館を目指すことはほぼ絶望的でしたが、この電子ベースの書籍や論文に関して言えば、その費用や専門家のサポートという問題があるにせよ、その絶望感は少し薄れていきます。

英国のリヴァプール大学で学位論文に取り組んでいるとき、多方面の文献を必要としました。リヴァプール大学には各学部毎に図書館があって古代中近東学部の図書館は学部の建物の1階に位置し、面倒な貸し出し手続きもなく、非常に便利に利用できたのを思い出します。またリヴァプールでは手に入らないものについてはマンチェスターやケンブリッジの図書館まで利用することができました。いよいよ英国を去るとき、もうこういう図書館は使用できなくなるのかと思うとがっかりしたのを覚えています。特にエジプト学関係の書籍は、貴重な基本的書籍の多くが古く、おまけにしばしば手書きの書物が多かったので再版も絶望的でした。しかし、帰国して間もなく、諦めていた多くの古い書籍もインターネット上に閲覧可能なサービスが発達していることに気が付きました。今もよくお世話になるのはInternet Archiveで、かつては見ることのできなかつた古い書物を無料で(時々献金)閲覧できるようになっています。そればかりか出身校を通して、様々な文献検索が可能ですが、それは次回ご案内致します。(続)

○ 2022 年度収支決算概要 / 2023 年度収支予算概要

単位/千円

収入の部	2022年度予算	2022年度決算	2023年度予算
維持献金	28,000	26,691	28,000
指定献金(研修生)	17,000	16,484	16,000
特別指定献金	9,020	9,125	10,020
その他収入	16,101	14,057	17,767
収入の部合計	70,121	66,357	71,787
支出の部			
活動費	5,980	5,330	5,880
管理費	14,390	13,045	13,690
人件費	30,946	29,675	30,393
聖書学研究所	2,800	2,801	2,800
その他支出	16,005	17,395	19,024
支出の部合計	70,121	68,246	71,787
収支差額	0	-1,889	0

全能の主の御名を賛美します。

昨今の厳しい経済情勢の中でも、諸教会の皆さまがお祈りくださり、お献げくださって学舎にある主のわざが支えられています。感謝しております。ただ、諸費高騰と研修生の人数減なども作用して、昨年度は約189万円の実質赤字となり、繰越準備金を取崩して対応します。

引き続き、主の目にかなう神学教育を提供できるように、お祈りとお支えをよろしくお願いいたします。

皆さまの上に主の祝福がいよいよ豊かにありますようにお祈りいたします。諸教会のすべての必要も、主が満たし、祝して下さいますように。

(聖書宣教会財務)